

科目名	建築設計製図Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ						
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	古賀 俊光	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	実務家教員担当科目	設計事務所にて建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	<p>【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリーPLAN】各自で条件にあったフリーPLANを作成する</p>						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる	
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
	○					製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。	
	○					製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。	
	○					製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。	
テキスト・教材参考図書	彰国社 定番建築製図入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 説明・平面図作図					
	2	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図作図					
	3	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図作団					
	4	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図					
	5	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図					
	6	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図					
	7	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図					
	8	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ、手直し					
	9	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ、手直し					
	10	【木造】住宅フリーPLAN課題説明					
	11	図面製作① 敷地の読み取り方					
	12	図面製作① コンセプトの設定					
	13	図面製作① コンセプトの設定					
	14	図面製作② エスキス					
	15	図面製作② エスキス				自分なりに完成までのスケジュールを組み立て、遅れている行程については授業外で作業を進めていくこと	
	16	図面製作② エスキス					
	17	図面製作③ エスキスチェック 手直し					
	18	図面製作③ エスキスチェック 手直し					
	19	【木造】住宅課題作品 提出					
	20	【RC造】住宅プラン 課題説明					
	21	図面制作 コンセプトの設定					
	22	図面制作 コンセプトの設定					
	23	図面制作 エスキス					
	24	図面制作 エスキス					

	25 図面制作 エスキス						
	26 図面制作 エスキスチェック						
	27 図面制作 仕上げ						
	28 図面制作 仕上げ						
	29 課題作品発表準備						
	30 作品発表 講評						
評価方法	(1)課題作品 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品		○				50%
	作品発表	○	○				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	森行 美枝	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 設計・監理業務担当	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	<p>社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。</p> <p>前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。</p> <p>以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し調査や発表・講評等も行う予定である。</p>						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画とは何かを説明できる	
		○				既存の建築計画を調査・研究している	
		○				これから社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティー施設					
	2	4-2図書館 図書館の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティセンター、公民館				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	課題・プレゼンテーション	○	◎				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築計画IV					
科目名(英)	Architectural Planning IV					
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	赤星 亜美
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社で インテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	建築工学科 1年					
授業概要	社会的状況により建築計画も大きく変わってきます。あらゆる施設の条件的な成り立ちを理解することは、新しい形状を見つけ出すためには重要な資料となる。この授業では、施設計画の裏付けを理解し、自ら設計提案できる力を身につけることを目的とする。					
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				既存の建築計画の調査、研究が出来ている
	○	○				事務所ビルの理解ができ計画が出来る
	○	○				音楽ホール、劇場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる
	○	○				百貨店、スーパーマーケットの構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる
	○	○				宿泊施設、駐車場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる
テキスト・教材 参考図書	テキスト:初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書:カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率				予習・復習することを心がける。
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	4	6-2事務所ビル 各室計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	11	6-5宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件				前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	12	6-5宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	13	6-5宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	14	6-5宿泊施設 6-6駐車場				予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	15	総括 I				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他

科目名	建築設備					
科目名(英)	Building Facilities					
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	峯元 幹雄
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	総合メーカー建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門に従事
対象学科・学年	建築工学科 1年					
授業概要	概要から各設備の役割・種類・構成・特徴まで、建築設備の包括的な専門知識を学ぶことにより、建築環境の基礎知識に基づいた設備計画を立てられる力を育成する。					
授業形態	講義: ○	演習: -	実習: -	実技: -	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる
	○	○				昇降機設備の種類と仕組みを説明できる
テキスト・教材参考図書	初学の建築講座 建築設備 第3版					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	建築設備概要(1・1建築設備とは)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	2	給排水衛生設備 2・1給排水衛生設備とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	3	2・2給水設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	4	2・3給湯設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5	2・5排水・通気設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	6	2・6排水処理設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	7	2・7衛生器具設備 2・8消火設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	8	空気調和設備 3・1空気調和設備とは 3・2空気調和と室内環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	9	3・3空気の状態を知る 3・4空調負荷の考え方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	3・5空気調和方式の種類 3・6熱源・熱搬送設備と機器部材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	3・7換気・排煙設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	電気設備 4・1電気設備とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	4・2受変電・幹線設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	4・5照明・コンセント設備 4・6情報・通信設備搬送設備 5・1・1エレベーター				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	15	まとめ				本科目における学習内容を復習しておくこと
評価方法	定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	定期試験		◎	○		
	小テスト		○	◎		
	宿題・レポート		○	○		
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない					

科目名	建築構造力学Ⅱ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	古賀 俊光	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての关心も強くなっています。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、建築構造力学(応力、トラス、座屈、たわみ、不静定構造など)の考え方を身につけます。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				応力を算出することができる。	
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。	
	○	○				トラスの軸力を算出することができる。	
	○	○				梁のたわみ、材の座屈が計算できる。	
	○	○				不静定構造物について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	持ち出し梁の応力					
	2	片持ち梁の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	片持ち梁系ラーメンの応力(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	片持ち梁系ラーメンの応力(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	単純ラーメンの応力(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	単純ラーメンの応力(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7	3ヒンジラーメンの応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	トラス構造の特徴と静定トラスの解法について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	静定トラス 切断法(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	静定トラス 切断法(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	静定トラス 節点法・算式				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	静定トラス 節点法・図式				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	梁のたわみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	座屈				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15	不静定構造について				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	宿題・レポート	○	◎				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築一般構造Ⅱ							
科目名(英)	ntroduction of Building Construction Ⅱ							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。							
授業形態	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="radio"/>	実習: <input type="radio"/>	実技: <input type="radio"/>	※ 主たる形態: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				RC構造の特徴について説明することが出来る。		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。		
		<input checked="" type="radio"/>				断面算定をすることが出来る。		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				トラス構造について説明することが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは						
	2	RC構造の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	梁・柱部材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	断面算定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	鉄骨構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	鋼材の種類と性質				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11	各部材の設計				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	接合(高力ボルト接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	接合(溶接接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	柱脚、トラス構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	構造Ⅱの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		定期試験	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>				40%
		小テスト	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				40%
		宿題・レポート	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない							

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building Construction Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	集路 正巳	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	前期で学んだ施工Ⅰに続き、鉄骨工事以降の建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を学ぶ。また、建物完成後の業務に関しても、概要を学習する。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	鉄骨工事(工場製作②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	鉄骨工事(工場製作③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	鉄骨工事(現場施工②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	屋根工事、防水・シーリング工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	内装工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	確認テスト②、期末試験対策				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築法規 II						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事	
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	階段、廊下の幅				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	階段、廊下の幅②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	確認申請などの手続き1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	確認申請などの手続き2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	構造と規模についての規定				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	用途地域1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	用途地域2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	道路概要				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	敷地と道路の関係				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	建ぺい率1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	建ぺい率2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	容積率1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	容積率2(緩和)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	容積率3(緩和)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	15	確認問題 (筆記試験)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築図学Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE II						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	山内 由美	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し 絵として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				2消点法を用いて基本的なパースが描ける	
	○	○				基本的なフリーハンドパースを描ける。	
	○	○				自ら設計した住宅の内観をパースにすることができる。	
	○	○				自ら設計した住宅の外観をパースにすることができる。	
	○	○				色鉛筆で着色し、カラーパースとして完成させる。	
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	外観2消点図法 基本①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	2	外観2消点図法 基本②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	3	2階建ビル フリーハンドによる作図				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	4	3階建てビル フリーハンド・2消点図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	5	3階建てビル フリーハンド・2消点図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	6	陸屋根住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	7	陸屋根住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	8	切妻住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	9	切妻住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	10	2階建アパート フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	11	2階建アパート 2階建コーカス フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	12	2階建コーカス フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	13	自作の設計図面をパースにする①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	14	自作の設計図面をパースにする②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	15	着色				授業最終日に指定する締切日に全作品を提出	
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	○	○				20%
	課題作品	○	○				50%
	提出締切	○	○				30%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	造形学Ⅱ						
科目名(英)	Architectural modeling Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	山内 由美	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	前期で学修した授業を踏まえて、製図・模型作成スキルの更なる習熟を図る						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					コンセプトに沿った設計を組み立てることができる	
	○					建築図面を正確に読みとくことができる	
	○	○				図面から正確な建築模型制作ができる	
テキスト・教材 参考図書	模型づくりからはじめる建築製図の基礎						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	パーソナルハウスのインテリア設計 課題説明					
	2	パーソナルハウスのインテリア設計 エスキス コンセプト					
	3	パーソナルハウスのインテリア設計 スタディ模型 図面作成					
	4	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 図面作成					
	5	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 図面作成					
	6	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 内観ペース					
	7	パーソナルハウスのインテリア設計 模型作成 内観ペース					
	8	パーソナルハウスのインテリア設計 仕上げ、手直し					
	9	設計製図課題 住宅模型作成①				授業内で終えられなかった作業は次回までに完了させておくこと	
	10	設計製図課題 住宅模型作成②					
	11	設計製図課題 住宅模型作成③					
	12	設計製図課題 住宅模型作成④					
	13	設計製図課題 住宅模型作成⑤					
	14	設計製図課題 住宅模型作成⑥					
	15	設計製図課題 住宅模型作成⑦					
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	課題提出	○				30%	
	課題作品	○	○			60%	
	提出状況	○				10%	
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	CAD演習Ⅱ					
科目名(英)	cad exercise II					
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	吉田 麻美
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科・建築学科 1年					
授業概要	建築CAD検定2級合格を目指す。試験は自らの持つ建築知識をもとに、CADシステムを使って建築図面を作成する実力を備えているかを問う内容。実技試験で、5時間内に平面図と立面図の2面を作成する。					
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				検定の内容を理解して1/50の平面図の作成が出来る
	○	○				検定の問題各図面を読み解き1/50の南立面図の作成が出来る
	○	○				各図面より屋根形状を読み取ることが出来る
	○	○	○			コマンドを駆使して正確かつ迅速な作図が出来る
			○	○		建築CAD検定2級に合格することが出来る
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	建築CAD検定2級の試験概要の説明 第1課題 平面図作図				
	2	第1課題 平面図作図				前回の復習をすること
	3	第1課題 平面図作図				前回の復習をすること
	4	第1課題 立面図作図				前回の復習をすること
	5	第1課題 立面図作図				前回の復習をすること
	6	第1課題 立面図作図 印刷して提出				前回の復習をすること
	7	第1課題 チェックバック ・第2課題平面図作図				前回の復習をすること
	8	第2課題平面図作図				前回の復習をすること
	9	第2課題立面図作図				前回の復習をすること
	10	第2課題立面図作図				前回の復習をすること
	11	第2課題立面図作図 印刷して提出				前回の復習をすること
	12	第2課題 チェックバック ・第3課題平面図作図				前回の復習をすること
	13	第3課題平面図作図				前回の復習をすること
	14	第3課題立面図作図				前回の復習をすること
	15	第3課題立面図作図				前回の復習をすること
評価方法	(1)3課題の提出を行う。(2)検定の合否(3)提出物のクオリティ 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	課題提出		○	○	○	10%
	検定の合否		○	○	○	60%
履修上の注意	課題のクオリティ					
	○		○		○	30%
出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	GCB II							
科目名(英)	Global Citizen Basic II							
単位数	1単位		時間数	15時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 1年							
授業概要	GCB Iで学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB IIではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。							
授業形態	講義: <input checked="" type="radio"/>	演習: <input type="radio"/>	実習: <input type="radio"/>	実技: <input type="radio"/>	※ 主たる形態: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	<input checked="" type="radio"/>					考えることの大切さを知る		
	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				自分の言葉で伝える大切さを知る		
		<input checked="" type="radio"/>				目標の大切さ、志の大切さを知る。		
		<input checked="" type="radio"/>				行動する大切さに気づく。		
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティ즌ベーシックII テキスト							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	グローバルシティ즌と志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～						
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～						
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～						
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～						
	5	伝える力を学ぶ(2) 「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～						
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～						
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～						
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと						
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				30%
	課題の提出		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>				70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない。							

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間	担当者	各クラス担任	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築工学科 1年						
授業概要	I の授業を基に、講生同士で実際にコミュニケーションを行い、これらの体験的な習得を目指す。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				自分の意見や考えを他者に適切に伝える方法を説明できる。	
	○	○				他者の意見や考えを適切に聞く方法を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書は指定しない。参考図書はそのつど指示をする。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーションが困難な状況				講義内で書いてもらうノートや配付するプリントに基づいて、毎回の授業内容の復習をすること。講義内でミニ・レポートなどの課題を出すこともある。	
	2	自己開示 自己呈示 演習					
	3	説得 依頼 演習					
	4	ミスコミュニケーション 演習					
	5	コミュニケーションにおいて相手を理解すること					
	6	コミュニケーションにおける言葉の使い方					
	7	敬語利用のケーススタディ					
	8	まとめ					
評価方法	(1受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	
	受講態度・意欲		○	○			
	課題の提出		○	○		30%	
						70%	
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	設計競技ゼミ I					
科目名(英)						
単位数	2単位		時間数	60時間	担当者	古賀 俊光
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年					
授業概要	設計競技に挑戦する。課題に対して、分析、問題提起、解決への道筋をたて、建築パースや模型・各種図面で表現をし、プレゼンボードとしてまとめて設計意図を表現することができる能力を身につける。					
授業形態	講義:	演習:	実習:	○	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					課題を分析することができる
	○					問題に対して道筋をたてた設計回答をすることができる
	○					設計した内容についてプレゼンテーションが出来る。
テキスト・教材 参考図書	参考図書:各種建築雑誌					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	ガイダンス・課題説明				
	2	課題分析・エスキース				遅れている分は時間外に実施
	3	エスキース				遅れている分は時間外に実施
	4	エスキース				遅れている分は時間外に実施
	5	エスキース				遅れている分は時間外に実施
	6	エスキース				遅れている分は時間外に実施
	7	エスキース				遅れている分は時間外に実施
	8	エスキース				遅れている分は時間外に実施
	9	中間プレゼン用PP作成				遅れている分は時間外に実施
	10	中間プレゼン用PP作成				遅れている分は時間外に実施
	11	中間プレゼンテーション				遅れている分は時間外に実施
	12	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	13	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	14	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	15	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	16	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	17	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	18	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	19	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	20	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	21	図面制作・模型作成				遅れている分は時間外に実施
	22	プレゼンボード・プレゼンPP作成				遅れている分は時間外に実施
	23	プレゼンボード・プレゼンPP作成				遅れている分は時間外に実施
	24	プレゼンボード・プレゼンPP作成				遅れている分は時間外に実施

	25 プレゼンテーション・講評会	遅れている分は時間外に実施					
	26 プレゼンテーション・講評会	遅れている分は時間外に実施					
	27 ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施					
	28 ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施					
	29 ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施					
	30 作品完成・提出						
評価方法	(1)設計内容・プレゼンテーション (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	設計評価		◎				50%
	プレゼンテーション力		◎				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	BIM 専攻 IB(選択)					
科目名(英)	Building Information Modeling IB					
単位数	1単位		時間数	15時間	担当者	道脇 力
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。 					
授業形態	講義:	演習: <input checked="" type="radio"/>	実習:	実技:	※ 主たる形態: <input checked="" type="radio"/> その他: <input type="radio"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	<input checked="" type="radio"/>					材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。
	<input checked="" type="radio"/>					レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。
	<input checked="" type="radio"/>					自分で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」				前回の復習を行うこと
	2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答				前回の復習を行うこと
	3	課題2:作成モデルのリノベーション「コンセプト」				情報、資料収集を行うこと
	4	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと
	5	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと
	6	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング①」				タイムスケジュールの確認を行うこと
	7	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング②」				タイムスケジュールの確認を行うこと
	8	課題2:作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」				必要提出資料の確認を行うこと
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲
	発表・作品		<input checked="" type="radio"/>			50%
	課題提出		<input checked="" type="radio"/>			50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない					

科目名	数学ゼミ I B(選択)						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	15時間	担当者	吉田 麻美	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形態	講義: <input type="radio"/>	演習: <input type="radio"/>	実習: <input type="radio"/>	実技: <input type="radio"/>	※ 主たる形態: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>		
学習目標 (到達目標)	言語情報 知的技能 運動技能 態度意欲 その他	目標					
	<input type="radio"/> <input type="radio"/>				単項式と多項式の基本問題が解ける		
	<input type="radio"/> <input type="radio"/>				文字式を利用した応用問題が解ける		
	<input type="radio"/> <input type="radio"/>				連立方程式の基本問題が解ける		
	<input type="radio"/> <input type="radio"/>				連立方程式の応用問題が解ける		
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】式の計算 単項式と多項式				解答出来なかつた問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかつた問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】文字式の利用 偶数と奇数の和					
	3	【演習問題】文字式の利用 等式の変形					
	4	【演習問題】文字式の利用 図形の関係式の変形					
	5	【演習問題】連立方程式 加減法と代入法を用いた解き方					
	6	【演習問題】連立方程式 いろいろな連立方程式の解き方					
	7	【演習問題】連立方程式 連立方程式の利用・身近な問題を解く					
	8	【演習問題】総合復習 まとめ					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	
	受講態度・意欲		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
	課題の提出		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						